

元気な川への復活を目指して!!

～一庫ダム 土砂還元フラッシュ及び点検放流の実施～

みずしげんきこう
水資源機構一庫ダム管理所では、かつて大勢の人に親しまれた元気な
ひとくら おおろじかわ
一庫大路次川を復活させようと、いながわぎょぎょうきょうどうくみあい
と協働して、川の環境改善に取り組んできました。

土砂還元フラッシュ放流は、ダムからの放流量を一時的に増やして、同時に土砂を強制的に河川内に流下させ、川石に付着した藻類の剥離・更新を促し、魚類の産卵床等や生息場を作ることを目的に行います。また、今回はフラッシュ放流時（1回目）に、非常用洪水吐きゲートの点検放流を兼ねて実施します。

今年はこの日程で行います。

実施日時：1回目：平成30年5月12日（土） 10時00分～16時00分
：2回目：平成30年5月29日（火） 9時30分～16時30分
※）1回目は非常用洪水吐きゲートの点検放流を兼ねて実施し、ゲートからの放流は11時～15時を予定します。

当日、ダム下流の河川では、ダムの放流により徐々に水位が上昇しますので、十分注意してください。また、放流量の増加に合わせて警報局からの放送等による河川利用者への注意喚起を行います。

また、点検放流時には多くの方の来場が予想されますので、ダムにお越しの際は、公共交通機関を利用してご来場下さい。



平成30年4月18日

独立行政法人 水資源機構 一庫ダム管理所

発表記者クラブ

川西市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 一庫ダム管理所

住所：兵庫県川西市一庫字唐松4番地の1

電話：072-794-6671（代表）

ダムが流す水で川をリフレッシュ！

一庫(ひとくら)ダム下流の河川環境に配慮した放流の実施について

1. 実施日時

1 回目：平成30年5月12日(土) 10時00分～16時00分(予定)

2 回目：平成30年5月29日(火) 9時30分～16時30分(予定)

※当日の河川流量や降雨状況によっては、予告無く、中止する場合があります。

※1 回目は非常用洪水吐きゲートの点検放流を兼ねて実施。

なお、非常用洪水吐きゲートからの放流は11時～15時を予定。

※1 回目はフラッシュのみ。2 回目は土砂還元フラッシュを実施。

2. 土砂還元フラッシュ放流の概要

一庫ダムでは毎年4月より6月16日から始まる洪水期に備えて、洪水調節の貯水容量を確保するためにダムの貯水位を下げます。土砂還元フラッシュ放流はこの時にダムから流す水を有効利用し、一時的に川の水を増やして(ダムから最大毎秒12.5m³)、川底の石などに付いた古い藻や汚れを洗い流し、川をきれいにします。(参考写真-1)

【川への土砂の投入】

土砂還元フラッシュ放流は、ダム直下流に土砂を直接投入し、放流量を増やして流下させ、河川に土砂を還元させます。これにより石などに付着した長く伸びた藻類をはがして、新たな藻類の成長を促進するとともに、土砂供給による底生動物や魚類等の生息環境を作り出すために行います。



平成29年5月9日土砂投入の様子

【放流の仕方】

当日は、9時30分から徐々に水量を増やし、11時に最大毎秒12.5m³(通常時の約4倍)に到達して、4時間継続した後、水量を減らし、16時30分頃には元の水量に戻して終了します。

※ ダムから流す水の量を増やすときは、ゆっくり増やしていきます。

※ 1 回目(5/12)フラッシュ放流の放流時間は10～16時を予定。(最大放流量は同様)

【安全対策】

フラッシュ放流によって、下流の川の水位が大きい所では 50cm 程度、上昇すると想定しています。ダムではスピーカー放送や川の巡視を行い、川の利用者に川から出ていただくよう協力を呼びかけ、安全を確保します。

3. 土砂還元フラッシュ放流により期待される効果

- ①川底の石に付着している古い藻類が剥がれて、新しい藻類（魚類等のえさ）ができる。
- ②川底に中小の石や砂が堆積することで、魚が卵を産む場所（魚類の産卵床）が改善される。
- ③藻食性のアユ等の生息場が形成される。
- ④少ない水量では、川の一部に澱みができてしまうため、澱みを流して川をきれいにする。



フラッシュ放流前(古い藻の付着)



フラッシュ放流後(古い藻の剥離)

(参考写真-1)

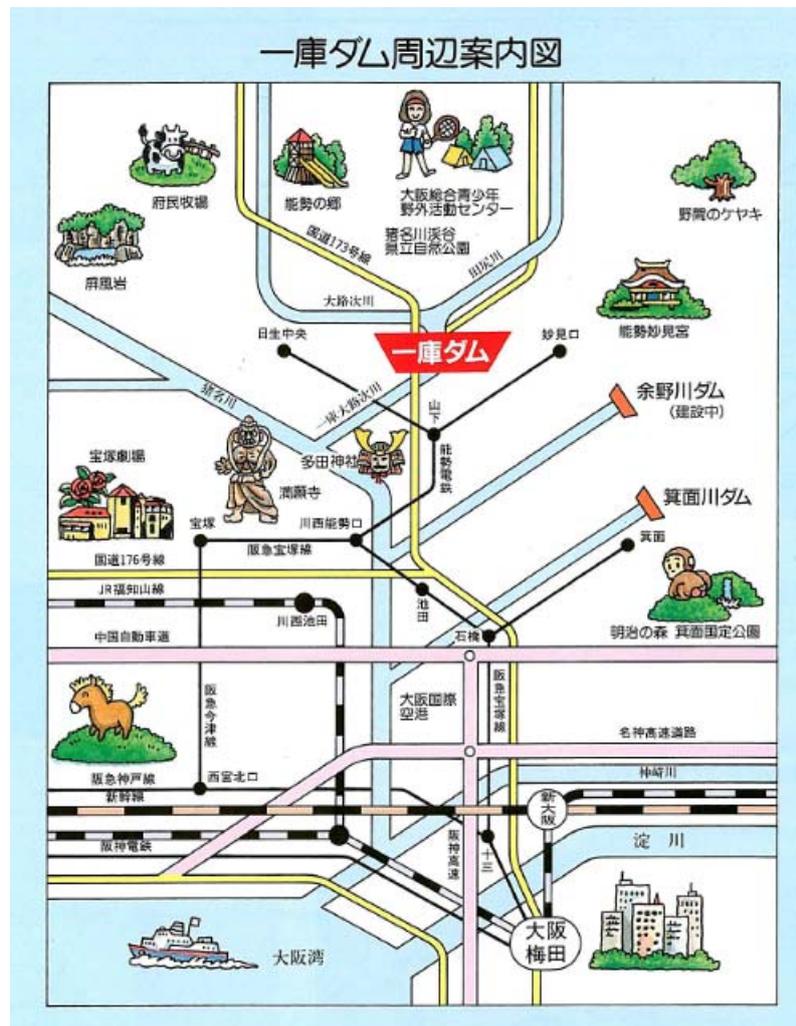
4. これまでの取り組みの効果



●非常用洪水吐きゲートの点検放流状況（写真：平成18年の実施状況）



※) 点検放流時には多くの方の来場が予想されますので、ダムにお越しの際は、公共交通機関を利用してご来場下さい。



ひとくら
一庫ダム



型式	重力式コンクリートダム
堤高	75 m
堤頂長	285 m
堤体積	約44万 m^3
集水面積	115.1 km^2
湛水面積	1.4 km^2
総貯水容量	3,330万 m^3
有効貯水容量	3,080万 m^3
目的	洪水調節・流水の正常な機能の維持 ・水道用水の供給
管理開始	昭和58年度